

だいせつざんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

安全登山を考える（3回シリーズ） 最終回 安全に山を楽しむために

前回の原稿を書き上げたその翌日、また旭岳で遭難事故が発生してしまいました。新聞等で報道されたのでご存じの方も多と思います。

旭岳から下山中の男女2人が悪天候により山中での露営を余儀なくされたというものです。

雪の中で二晩を過ごした後、男性は凍傷を負い、女性は死亡しました。発見されたのはスキーコースからわずか十数メートルしか離れていない場所。亡くなった女性は外国から来たまだ成人もしていない若者でした。いろいろとやりきれない気持ちになる事故です。

彼らの元々の計画がどのようなもので、どのくらいの準備をしていたのかは明らかにされていませんが、捜索の際に確認した限りでは装備は明らかに不適切なものでした。

大雪山においては秋であっても適さないような服装。予備の防寒着さえ入らなさそうなごくごちんまりとしたザック。テントなどは持っていなかったと報道されていましたが、そもそもそういったものを入れられる大きさではありませんでした。

さらに聞くところによると、旭岳山頂を目指したのは午後遅くな

憩いのひととき。山ではいつも楽しく過ごしたい



ってからということです。3月の大雪山は完全な冬山です。そこに入っていくために満たすべき適切な装備、必要な技術、欠かせない準備、そのすべてが不十分だったのではないのでしょうか。

安全登山にとって、もっとも重要なのは「登る山について知ること」と「自分の力量を見極めること」の2点に集約されるでしょう。まずは、これから向かう山がどんな場所であり、そこで要求される力量がどの程度のものなのかを知らなければなりません。

次に、装備、技術、準備を含めて、自分の総合的な力量を勘案し、それが要求される水準を満たしているのか否かを判断しなければなりません。

書いてしまえば簡単ですが、実際に行うにはとても難しいものです。誰だって自分を客観的に評価するのは得意ではないからです。できれば信頼できる先輩や仲間など第三者に判断してもらうのが良いでしょう。身近に頼れる人がいない時には、登山ガイドに助言を求めているだけでも構いません。私たちは喜んで力になります。

毎年、毎月のように繰り返される遭難事故。どうすればこれ以上の犠牲者を出さずに済むのかは、もしかすると解決されることのない永遠の課題なのかもしれません。私たちにできることは微々たるものですが、この素晴らしい大雪山を多くの方に安全に楽しんでもらうために努力を続けていきたいと思っています。

山樂舎BEAR 土 栄 拓 真

俳句

雪解けて里人たちが動き出す

スキップに跳ねる名札や入学す

雪解道足の運びに老を知る

進学や学生服の幼な顔

入学式なにか良いことありそうな

雪解けを待ちくたびれしアキレス腱

越してきた向かいの家に一年生

星ひとつ待たせて昇る春の月

大空を呼びあいていま雪とける

入学の無垢の眸のまぶしかり

仮校舎新入生の靴光る

轉りへ傾けておく耳ふたつ

忠別湖に加わり始む雪解水

入学の子の背に見えぬ翼あり

長閑さや白紙に滲む筆のあと

杉山 ひろのり

徳光 吐 苦

杉山 り つ

山口 佐知子

若田 久

高瀬 潤

石澤 清 宏

澤田 久美子

松山 蓉子

三島 智

若田 郁

秋山 深 雪

長谷川 きみゑ

小林 ろ ば

高橋 公 花

